

学校を志望する

日本には数多くの高校が存在します。文部科学省の令和元年度の学校基本調査によれば、日本全国の高校数は4800校(他に分校87校)あります。しかしこの調査は全日制と定時制課程の高校が対象であり、この他に通信制の高校が252校あります。多くの学校から1つの高校を選ばなくてはなりません。

新幹線で通学しているケースや、寮に入居しているということを知ることもあります。やはり自宅から通学できる範囲で高校選びをすると、首都圏にある国立、東京をはじめ首都圏にある私立、それに神奈川にある高校が通学圏内といえましょう。また、私立の広域通信制高校も含めて、その数は500校程度になると思います。

高校選びの大きな要素として学科、進学か就職か、公立か私立か、共学か男子校又は女子校か、学力などが挙げられましょう。

学科や、進学か就職かで高校を考える場合、将来、大学を目指す人は普通科、技能習得や就職を目指す人は専門学科、そしてまだ、普通科や専門学科に進学が定まっていない人や、両方を考えている人は総合学科に進学を考えることができます。

教育目標、学風、建学の精神、経済面、教育施設、海外留学、などを考えると、公立なのか、私立なのかが見えてくると思います。また、第一志望校を国立にするのか、公立にするのか、私立にするのかでも、勉強や経済面、スケジュールなど、高校入試の準備が異なってきます。

県内公立高校で共学校ではない学校はありませんが、東京には国立大学の附属である筑波大学附属駒場高校が男子校、お茶の水女子大学附属高校が女子校です。私立高校には多くの男子校、女子校があります。近年、男子校、女子校の共学化が進んでいますが、男子校や女子校には伝統校があり、その学校の教育理念や教育目標に男女別学の良さが示されています。

学力については、自らの学力・成績が、志望校に合致しているのかが重要になってきます。特に、国立や難関私立高校では、当日の学力検査が合否を決めます。公立高校でも学力検査や面接のウェイトは大きいといえましょう。

上に示した大きな要素から何校かの高校を絞り込み、そこから、さらに各校を比較して最終的な志望校を決定していきます。次に、各学校を比較するための、検討要因を示しておきます。

○校風 ○学習環境 ○施設 ○費用 ○指導方針 ○教職員 ○進路実績 ○部活動
○食堂・売店 ○登下校時間 ○新型コロナウイルス感染防止の対策 ○修学旅行・留学
○選考方法 ○交通の便 ○制服 他

受験生にとって、これらの要因のなかで絶対的なものではなく、各受験生によって優先順位は異なってきます。志望校を決めるには、各高校の事柄を知ることが必要になります。

各高校の情報を入手するには、受験雑誌等の書籍、ホームページ、先生や先輩からの評判、学校訪問(学校見学や学校説明会)などが挙げられます。

6月の公立高校展、夏休み期間中の各地区公私合同説明会が中止され、なかなか志望校を決定するための情報を得ることができないでいると思います。県立高校は9月から学校説明会を開催していきます。学校説明会に行って、学校の校風や雰囲気を感じ取るため、建物、施設、グラウンド、体育館、校庭などに目を向け、生徒の日常生活を見てください。受験生自身が、その学校での高校生活が感じられるかが大きなポイントだと思います。そこで高校生活を感じにくいなら向いていないかもしれません。

学校説明会で進路指導、部活動等を他校と比較すると思いますが、学校の教育目標や教育理念など、学校の本質が見えるかどうか、重要なポイントだと思います。

本校は平成28年1月、神奈川県教育委員会より県立高校改革1期の指定を受け、平成29年4月より神奈川県立横浜清陵高等学校として開校しました。前身は神奈川県立横浜清陵総合高等学校という総合学科の学校でしたが、年次進行型の単位制普通科に改編され、出発しました。



本校は、横浜清陵総合高等学校の進学型総合学科で培ってきた生徒一人ひとりに応じた履修指導、キャリア教育プログラム、アクティブラーニングの視点に立った授業など、総合高校として積重ねてきた教育の蓄積に、新校として「進学に重点を置いた学校」づくりを行っています。いままでの総合学科時と比較し、大学進学に関して一般受験をする生徒が多くなり、国公立大学や難関私立大学等への合格・進学者が出てきています。

今後も引き続き「進学に重点を置いた学校」づくりをコンセプトとして、学校を発展させていくため、本校の入試選考方法では、一般募集(1次選考)の学習の記録において、**国語、数学、英語のうち、点数の高い1教科を2倍**にしています。本校の入試選考の重点化は、大学におけるアドミッションポリシーと同様なものです。本校として臨む生徒像を現しているのです。

学習の基礎として3R'sといわれることがあります。英語のReading、Writing、Arithmeticからスリーアールズといわれますが、要は読み・書き・算盤のことを指します。

子どもの学習に対する基礎力として読解力、文章表現力、計算力は大切な力です。現代社会では数学の計算力に、国語の読解力、文章表現力、さらに今後の国内外において英語の読解力、文章表現力も基礎的な学力と考えられます。そこで本校は、学習の記録の中で3教科のなかで一番高いものを2倍とすることにしました。

マイクロソフトの創業者でウィンドウズを開発したビル・ゲイツは、高校時代に特に行っていたことは「読書、数学、プログラミング」と言っています。彼の言っている「読書」は読み、「数学」は算盤、「プログラミング」は書くことに繋がるのではないのでしょうか。